

2020年度 事業報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

特定非営利活動法人アトピッ子地球の子ネットワーク

1 事業の成果と課題

新型コロナ禍により、2020年3月からは当法人スタッフは原則リモートワークに入った。現実に対応した形で新たな事業や企画を立案実施していきたいと考えている。

再掲となりますが、当法人が主催している「アレルギー相談をテーマにした事例検討会」冒頭の開催意図を紹介し、事業の成果・到達点と課題といたします。

【ひとつの問題を異なる視点から見ることで解決の糸口に】

参加いただいている市民団体のみなさんは、日本国内において地域内または地域を超えて食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息など、いわゆるアレルギー疾患のある患者さんたちの支援を日常的に行っていると思いますが、それぞれに活動の形は違っています。

たとえば、私たちのアトピッ子地球の子ネットワークでは、電話相談の活動が中心ですが、一方で食物アレルギーの子どもたちの暮らしを支援するためのポスターや小冊子などを作成・配布する活動も行っています。

ほかの団体では、交流会などで患者さんと直接接する機会をたくさんお持ちだったり、面談による相談を新たにはじめられたりしているところもあります。そうした活動を通じて、特別に「相談」という形はとっていないけれども、患者の悩みや困難な状況を聞き取る、実質的な相談を日常的に受けているのです。

私たちアトピッ子地球の子ネットワークが、この事例検討会を開催した経緯のひとつに、こうした相談が市民活動においてどのような意味・役割・責任があるのかを年に一度みなさんと一緒に考えてみたいと思ったことがあります。この相談の持つ「意味・役割・責任」とは、医療に携わる人ではできないことであり、それを行うに当たって医療に踏み込んではいけなないといった側面もあることから、どの団体も手探りでやっているのが現状ではないでしょうか。

ですから、この事例検討会は共通の課題を確認し、一緒に発言していくことで社会に働きかけができることを発見し相互に助け合うようなことができるような場にしていきたいと思っています。みなさんに盛り立てていただいて、なんとか6回目を迎えることができました。

毎回、市民活動の応援団として、医師や研究者の方々にもご参加いただき、患者の立場とは違った視点から出来事を見ることで議論を深めていただいています。また医師や研究者の方々とは違った立場で、患者さんの日常を応援してくださっているのが企業のみなさんです。こうしていろいろな立場の方々が集まって、ひとつの問題を異なる視点から見ることで、解決の糸口につながると考えております。

今回から新しくご参加いただく方もかなりいらっしゃいますので、新たなディスカッションの広がり期待します。患者さんからの相談事例のほか、東日本大震災・熊本地震・西日本豪雨の災害支援報告などもあります。支援状況を振り返ることで、今後私たち市民団体がどうやって食物アレルギーやアトピーの患者さんの支援をしていくかといった議論もできるのではないかと思います。

どこかの誰かができること、誰でもできることをやるよりは、当法人だけができる事業を開発し展開したいと考えています。「正しい解(答え)」を求めず、「治療に合わせた患者」を作ることには与せず、本来的・根源的な意味で「マイノリティ(少数者)や困っている人に寄り添うこと、「受容」「共感」「寛容」「利他的」であることを旨として、様々な活動を今後も模索し展開していきたいと考えています。

2 事業の実施に関する事項

(事業費の総費用【 16,793 】千円)

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
電話相談	<p>・電話相談窓口開設(オンライン相談窓口開設)</p> <p>新型コロナ禍により相談スタッフもリモートワークとなり、電話相談をZoomを利用したオンライン相談に転換した。相談員1人がリモートワーク場所で電話相談活動をすればいいと通常は考えるだろうが、相談員の他にスーパーバイザーを置くことで(複数人で相談を受ける)、社会的な相談窓口を発足以来28年間に渡り維持してきた。</p> <p>オンライン相談と並行して患者家族や本人によるオンラインおしゃべり会や交流会を実施した。</p> <p>アトピー・アレルギー性疾患のある患者の家族(保護者)や当事者などからの相談を受け、相談者に寄り添い暮らし方のアドバイスを。「正しい答え」を伝えるのではなく、相談者が自身で判断するための伴走者として当法人の相談窓口はある。</p> <p>大規模災害で被災したアレルギー患者・災害弱者、育児放棄や虐待などで親と一緒に暮らすことができない子どもを受け入れる里親・ファミリーホーム、また、企業・団体・行政職員などからの相談も受け付けている。</p> <p>2020年7月豪雨の相談窓口も開設。</p>	<p>オンライン相談を毎週木金曜日に設定(11:00・13:00・14:00開始)</p> <p>休日、8月休</p> <p>おしゃべり会4回</p>	<p>法人事務所 リモートワーク場所</p>	4人	食物アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎などのアトピー・アレルギー性疾患、化学物質過敏症患者、その家族及び一般市民、企業・団体、行政不特定多数	0
調査研究	<p>・新型コロナ禍により生活困難になったアレルギー患者家族への聞き取り調査</p> <p>状況を把握し支援活動の実際に活用した。</p>	7月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	0
環境教育	<p>・夏休み環境教育オンラインキャンプ2020</p> <p>新型コロナ禍でもキャンプの灯を消さないように、オンラインキャンプを3日間開催。運営のため学生を中心としたボランティアも参画。参加体験型のプログラムとして、沢を歩くプログラムや生き物観察(動画撮影)、お弁当コンテスト、ゼリーコンテスト、米</p>	<p>4月～3月</p> <p>8月14日、15日、22日</p> <p>事前ボランティアミーティング5回以上開催</p> <p>キャンプ備品点検</p>	<p>法人事務所 リモートワーク場所</p> <p>新宿NPO協働推進センター 藤野芸術の家(神奈川県相模原市) 山梨県上野原市(当法人拠点)</p>	20人	アトピー・アレルギー性疾患患者とその家族及び一般市民 不特定多数	161

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
環境教育	<p>粉のシフォンケーキ作り、スマホでマラソンどこまでいける、大道芸、企業プログラム、講演会などを実施。オンラインで動画を公開。</p> <p>食物アレルギー、喘息、アトピー性皮膚炎のある患者とその家族を対象とした体感型環境教育プログラムを例年は提供してきた。「エピペン」(食物アレルギー緊急時治療用自己注射)持参の子どもも数多く参加。食事は「症状の重い」子どもに合わせてみんなで同じものを食べる試み(学校給食とは逆の発想)。アレルギーだけではなく発達障害などの多様な子どもの課題に対処。将来地域や仕事で患者を支援する立場になる、栄養士、保育士、教員、社会教育、医療系の学生や社会人がボランティアとして参加。次世代ボランティアを養成するためのインキュベーター企画でもある。また、大規模災害で被災したアレルギー患者家族、ファミリーホームの子ども達を優待・無料招待している。</p>					
	<p>・秋山プロジェクト 人と自然の共生、身体と環境の関係を、山梨県旧秋山村の当法人拠点とその周辺をフィールドとして里山ウォーキング等を体験し学習する機会を提供した。大人と子どもが一緒に参加できる企画である。</p>	4月～3月 6月、8月、3月	山梨県上野原市 法人事務所	3人	24人	
情報提供	<p>・Webサイト「食物アレルギー危機管理情報(FAICM)」(FAICM=Food Allergy Information for Crisis Management) アレルギー混入事故食品に関する自主回収情報を本サイトにアップ・集約し、サイトに登録した食物アレルギー患者などに案内メールが直接届くWebサイトを運用する。市民と企業による公共知の創造を目指している。</p>	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	7人	不特定多数	16,632

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	・カードゲーム「らんらんランチ」 食物アレルギー認知・理解向上のためのキャンペーンツール。 4個1セット(12人～20人が遊べる)を普及した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	3人	不特定多数	
	・東京子育て・食物アレルギーまっぴんぐ 食物アレルギーのある子どもを養育する母親自身が都内の身近な場所で経験した「よいこと」を集め、公共知にまで高めることができないかという仮説を立て、事実確認と情報整理をしながら、広く活用できるデータベース(ホームページ)を制作・運用した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	
	・エピペン(食物アレルギー緊急時自己注射)携帯ケース エピペンを子ども自身が持参し自己防衛と危機管理をするための「エピペン携帯ケース」を作成、販売した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	
	・依頼原稿執筆と書籍執筆 依頼原稿執筆等、広く情報提供を行った。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	3人	不特定多数	
	・ホームページの運用 活動内容の紹介等、広く情報提供を行った(オンラインクレジットカード、コンビニ等決済システム維持管理を含む)。同じくfacebookやTwitterなどのSNSも運用した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	
	・情報センター機能 メディア取材、企業・団体からの情報提供依頼、研究者への協力等に資するため、各種情報誌、学会誌、書籍等を閲覧に供した。新型コロナ禍により、オンラインや個別データ送付などで対応している。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	
	・執筆書籍や自主発行制作物の普及 当法人が執筆した書籍や、発行した小冊子、調査報告書などを配布した。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	3人	不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	・アレルギー対応製品販売協力 アレルギー対応製品を選択せざるをえない患者が安心して商品選定ができるよう協力した。また、アレルギーや商品に関わる動向についてリサーチを実施した。オイシックス・ラ・大地協力事業	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	3人	不特定多数	
	・食物アレルギーの人の食生活を豊かにするための「共同食品カタログ2020」 13社の食品・流通企業の各商品の一つのカタログに集め、情報を必要としている患者家族や医療機関、患者の通う保育園・幼稚園・学校、施設などに9,000部無料配布した。当法人ホームページからダウンロードできる。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	6人	9,000人 不特定多数	
	・「生活用品カタログ2020」 生活用品の一つのカタログに集め、情報を必要としている患者家族や医療機関、患者の通う保育園・幼稚園・学校、施設などに8,000部無料配布した。当法人ホームページからダウンロードできる。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	6人	8,000人 不特定多数	
	・組織運営協力 アレルギー表示の問題に取り組む組織の事務局運営に協力した。また、同組織が開催するオンライン「基礎講座」等のイベント開催の事務局を務めた。情報誌の発行にも協力した。 (一社)食物アレルギーフォーラム協力事業	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	
	(公財)小林製薬青い鳥財団助成事業 ・食物アレルギーの子どもたちの安心安全を支援するプロジェクト 子ども食堂関係者を主な対象とした食物アレルギー勉強会開催(誤食事例から注意ポイントを学ぶ、調理環境や食事提供時の安全管理)。食物アレルギーがある高校生、学生などの若者を対象としたワークショップ開催により、子ども自身が安全安心を	4月～3月 2022年3月までの2カ年事業	法人事務所 リモートワーク場所	4人	勉強会1回 ティーンズミーティング8回 不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	学び、自立できるようになることを応援した。					
	草の根市民基金・ぐらん「都内活動助成」助成事業 ・食物アレルギーYou!暮らし応援プロジェクト 食物アレルギーの人の誤食事故防止と生活の質(QOL)向上のため、日本語を解せる人のみならず、特に在日・訪日外国人が実際に使える、英語版の小冊子を作成した(A5判16頁1万部)。在日外国人比率や訪問者も多い新宿区の、観光案内窓口、宿泊施設、日本語学校、各国コミュニティ団体、大学・専門学校等にサンプルを配布し、希望に応じた部数を送付した。Webサイトからダウンロードできるようにした。	4月～3月	法人事務所 リモートワーク場所	10人	10,000人 不特定多数	
	中央共同募金会「赤い羽根新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン フードバンク活動等応援助成」助成事業 ・食物アレルギーの赤ちゃんのための支援事業 新型コロナ禍により経済的に困窮した、東京・大阪・兵庫のひとり親や外国籍の家庭に、食物アレルギー用粉ミルクを無償提供しその暮らしをサポートした。公的援助などもなく1カ月の粉ミルク代が3万円を超える家庭もあった。	6月～8月	法人事務所 リモートワーク場所	4人	13人 不特定多数	
	東京ボランティア・市民活動センター「ボランティア・市民活動支援総合基金 ゆめ応援ファンド2020特別助成」助成事業 新型コロナ禍での、組織・事業運営継続のため、オンラインで会議システムや事務所環境を整備した。	7月～3月	法人事務所	3人	不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	<p>(公財)パブリックリソース財団「子ども支援団体等緊急支援基金」</p> <p>・食物アレルギーの赤ちゃん応援事業</p> <p>新型コロナ禍により経済的に困窮した家庭に、食物アレルギー用粉ミルクを無償提供した。全国のアレルギー患者を多く診ている小児科などの医療機関700カ所、子育て支援センター540カ所、保健所450カ所、都内保育所2,000カ所などに本企画の案内チラシを配布。応募フォームへの申し込みは95件あり、1回当たり1カ月分の粉ミルクを送った(実際に送った数は53件、残り42件は別助成金で対応)。母乳とミルクの混合栄養の人もおり、月齢によっても飲む量が異なるため、1件1件電話をして状況の聞き取りをし、必要な銘柄の食物アレルギー用粉ミルクを送った。</p>	7月～12月	法人事務所 リモートワーク場所	4人	53人 不特定多数	
	<p>J-Coin基金助成事業 事務局： (公財)パブリックリソース財団</p> <p>・食物アレルギーの子ども応援プロジェクト</p> <p>新型コロナ禍により経済的に困窮した、食物アレルギー用の食品が必要な子どものいる家庭に必要なアレルギー用粉ミルク・食料を無償提供して、経済的負担を少しでも解消し子どもの命をつなぎつつ母親(保護者)を応援した。また、アレルギーの子も一般の子も同じものを食べられる食材料を使う、ユニバーサル給食の実施を希望する子ども食堂に、食物アレルギー用食料を無償提供した。勉強会も開催した。</p>	7月～3月 2021年6月までの事業	法人事務所 リモートワーク場所	7人	アレルギー用粉ミルク58人(1回に1カ月分)、食物アレルギー用食料108人(1回7種類約12食分)、子ども食堂6カ所(100人規模3カ所、70人1カ所、20人1カ所、10人1カ所)4,500食分勉強会1回 不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	<p>真如苑環境保全・生物保護市民活動助成“地球・自然・いのちへ”助成事業</p> <p>・みんなで考える「アレルギーと環境問題」</p> <p>オンライン講座として全4回開催。アレルギー疾患がある人にこそ環境問題について深く考えてほしいという思いがあり企画。近年は10代、20代の若い世代が環境について考えたいという意欲を示すようになってきたこともあり、環境を軸に身近な身体の問題に触れながら、環境と人について学ぶ機会を作りたいと考えた。経済、福祉、社会、文化と自然環境をめぐる課題がつながっていること、それが直接人々の身体影響に関わっていることを、様々な専門家と共に考えるプロジェクトとして実施した。</p>	7月～3月 1月23日、1月30日、2月27日	法人事務所 リモートワーク場所	5人	160人 不特定多数	
	<p>新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業(休眠預金) READYFOR(株)</p> <p>・子ども食堂ユニバーサルな食事プロジェクト</p> <p>新型コロナ禍により経済的に困窮した、収入減少・失職・ひとり親家庭にも食物アレルギーの子どもがいる。食物アレルギーの子ども一般の子どもと同じものを食べられる食材料を使う、ユニバーサルな食事の提供を希望する意欲的な子ども食堂への食料の無償提供を行う。このような子ども食堂があることにより、アレルギーの子のいる母親の経済的・心理的負担を少しでも解消したい。また、子ども食堂とアレルギー用食品製造企業をマッチングするWebフォームを作成し、無償での食品供給を目指し、子ども食堂で食物アレルギーの子どもも食べられる継続した食事提供の仕組みを構築したい。3月に準備を開始した。</p>	3月 2022年2月までの事業	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
情報提供	匿名基金A コロナによる“光の当たらない被害者”の子どもたちを守る助成事業 事務局：(公財)パブリックリソース財団 ・小規模保育所サポートプロジェクト 新型コロナウイルス禍、収入減、失業、ひとり親家庭など経済的に困窮している親子も利用する小規模保育所(定員6～19人、0～2歳児)。この小規模保育所を対象に数日分の必要な食品やおやつ、粉ミルクの無償提供を行う。通園する子どもの中には食物アレルギーの子どももいると想定されるのでアレルギー対応にも留意する。また、施設に通園する家庭が経済的に困窮している場合は、直接食品やおやつ、必要な場合は粉ミルクを無償提供する。保護者(母親)の経済的負担を少しでも解消し、心理的負担をやわらげ、安心して子育てできる環境をととのえる。3月までは準備に費やし4月から本格的に事業を開始する。	2月～3月 2021年7月までの事業	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	
	だいじょうぶだよ!基金 ひとり親家庭支援助成事業 事務局：NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ ・アレルギーの赤ちゃん応援プロジェクト 新型コロナウイルス禍により経済的に困窮している、食物アレルギー用粉ミルクを必要とする赤ちゃんのいるひとり親世帯に、アレルギー用粉ミルクを無償提供する。経済的負担を少しでも解消し赤ちゃんの命をつなぎつつひとり親世帯の暮らしを応援する。アレルギー用粉ミルクは一般品の倍程度の価格と高価であり、また、赤ちゃんの命綱であるにもかかわらず公的扶助の対象になっていない。3月から準備を開始した。	3月 2021年8月までの事業	法人事務所 リモートワーク場所	4人	不特定多数	

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
普及啓発	<p>・講師派遣</p> <p>新型コロナ禍によりオンライン開催となった。アトピー・アレルギー性疾患に関わる患者実態、危機管理、災害支援。子どもや保護者が抱える課題。また、NPO法人運営、市民活動(運動)等に関する情報を、市民、企業・団体・行政・学校等に広く提供した。一部自主開催企画もある。</p>	4月～3月	依頼者が指定する会場 法人事務所 リモートワーク場所	4人	8回 不特定多数	0